

心木木だより

vol. 50
2024 秋号

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成18年版)より 詩／坂村真民「露」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

val.20

筋骨薄弱第二乙

手

軍医がわたしの手を握って言った
あれは第一回の召集の時であった

お前は何をしていたのか

教員をしていました

何を教えていたのか

国語を教えていました

そうだろう

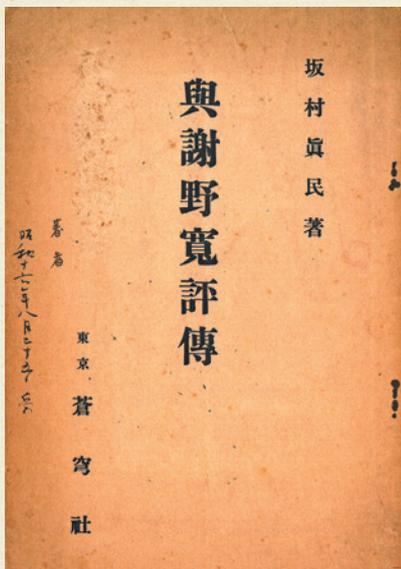
こんな手で人を殺せると思うか

帰れと言った

(後略)

「坂村真民全詩集第二巻」98ページ
「梨花」(昭和35年1月発行) 50歳の詩

三回にわたり、真民と久代の出会いと結婚、そして妻となった久代の人となりが皆さんに伝わるようにとページを割いてきました。



今号から、新生活をスタートさせて行きたいと思えます。ここで少しおさらいをしますと、昭和9年真民25歳の春、全羅南道順天女学校の教員として朝鮮に渡り、秋9月には、忠清北道清州公立高等女学校に転勤になります。実家・熊本で小学校の代用教員をしていたとき「九州民謡協会」に入り、民謡歌謡を作り始めていました。ここ朝鮮で真民は「朝鮮民謡協会」を作り「坂村真民歌謡集」を月一回出しています。そうして翌年、「旅情」「恋の並木路」が東海林太郎の吹込にてキングレコードから発売になり、「恋の並木路」は琴糸路の主演

で映画化されました。また28歳の時には「アラン夜曲」が渡辺はま子の吹込でビクターレコードから発売になり、後日ダンス曲に編曲されレコード化されています。

一方で真民はこの時期のことを、次のように書き記しています。「わたしは二十代の終わりがごろから一研究者として立とうと思った。それはまだ十分に究明されていない新派和歌の研究であった。わたしは朝から借用証書を書き、電報為替で参考文献を買い求めた。そうしていつの間にかこの方面ではわたしが一番文献をもっていた」と。27歳はこの研究に熱中し28歳で「与謝野寛評伝」を書き上げ、二十代を終わる記念として蒼穹社より出版しました。掲載の写真がこれで、現在、坂村真民記念館にて展示しています。真民に詳しい方は、「おや！実家に仕送りをするために給料が高い朝鮮に渡ったはずでは……。」と思われることでしょう。真民のお姉さんもすぐ下の妹さんも、授業料が免除される女子師範学校に進み学校の先生になっています。それで真民に少し余裕が生まれ、書籍を買うことが出来たのではないのでしょうか。けれど、それも本

表紙の詩



露 (65歳)

露が
 教えてくれるもの
 まるいものもいい
 すきとおったものもいい
 かすかなものもいい
 じぶんをもとうとしないものもいい

この詩は、真民が65歳の時の詩です。

まるいもの、すきとおったもの、かすかなもの、じぶんをもとうとしないものとは、真民が求めた「人間としての生き方」につながるものですね。
 禅の世界で「露」というのは、「露命るめい」、「露堂ろどう々」という言葉に使われ、「あらわれる」という意味になります。何物にも執着することなく、自分を露わにして、「人間本来の生き方」に生きることであり、そういうところにもつながる「露」の詩なのです。

の購入に消えてしまい、生活は楽ではなかったようです。

さてここから、紹介した詩「手」に入ってくださいませ。昭和13年(1938)8月21日(真民29歳)、第一回召集を受けます。戦前の日本では、男の晴れの舞台として成年に達すると徴兵検査というものがあり、学生だった真民も熊本に帰って受けた結果「筋骨薄弱第二乙」、つまり国のお役に立たぬ者という烙印を押されてしまいました。そういう真民にも召集令状が届いたのです。母・夕子(タネ)が心配して九州から来ていましたし、見送

りの人々の歓呼の声に対してもここで帰ることは出来ず、見送られて出発したのでした。この詩は、それから20年が経ち、やはり痩せた手で妻子を養っている、その細い手を見つめながら詠んだ詩なのです。

昭和15年1月3日、除隊になりました。約1年と4カ月、入隊中の詳細はわかりません。究極の自由人を称する父・真民でしたから、大変だったことは想像に難くありません。20歳を少し超えただけの母・久代は、さぞ寂しく不安だったことでしょう。ただ、母から聞いた話の一つあります。面会が許されたとき、

シュークリームを買って持って行ったと言うのです。病弱の父に少しでも体力をつけてもらおうと卵の黄身と牛乳で作るクリームが入り、若い頃から歯が弱かったので柔らかい皮に包まれていて、兵舎に持ち帰って食べるとき音もせず香りもないシュークリーム。でも、ここで、私は思います。母は、戦時中にシュークリームを探してとれだけ歩き回ったことだろうか、それを買うお金を捻出するために何日お漬物だけの食事をしたのだろうか。母の愛情がいっぱいの大好きな話です。

文／西澤真美子

「真民さんとタンポポ ～野に咲く花と共に生きる～」

開催期間 2024年10月26日(土)～2025年3月2日(日)

坂村真民は、生きとし生けるものへの愛情を込めた詩を数多く作っています。特に、野に咲く草花を詠った詩は、真民さんの純粹で清らかな心をそのまま表現した詩として、多くの読者の方に読まれています。今回は、その中でも真民さんが一番好きな「タンポポ」の花を詠った詩とその写真を一緒に展示することとしました。この写真は、この企画展のために、西澤館長が全国を回って撮り集めた写真です。真民さんがタンポポや野に咲く草花を、どんなに愛していたか、タンポポか

らどんなに励まされ、「たくさんの生きる力」をもらって生きて来たか、真民さんとタンポポの関係を分かりやすく解説したパネルも展示しています。

今回の企画展を開催するために、改めて真民さんとタンポポの関係を学び直して、色んなことを再発見しましたので、その成果もパネルにまとめています。皆さんもこの企画展の展示作品を見て、「温かい真民さんの想い」と「野に咲く草花」の愛らしさと逞しさを感じてください。

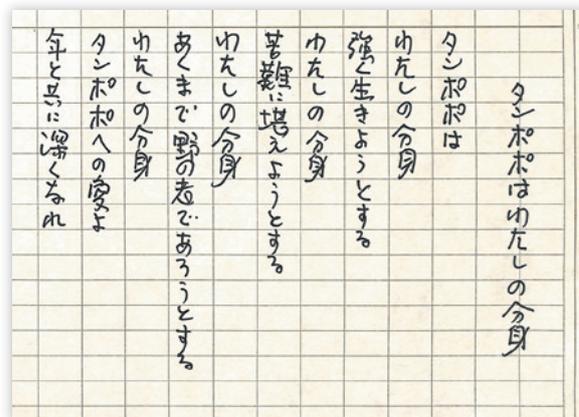
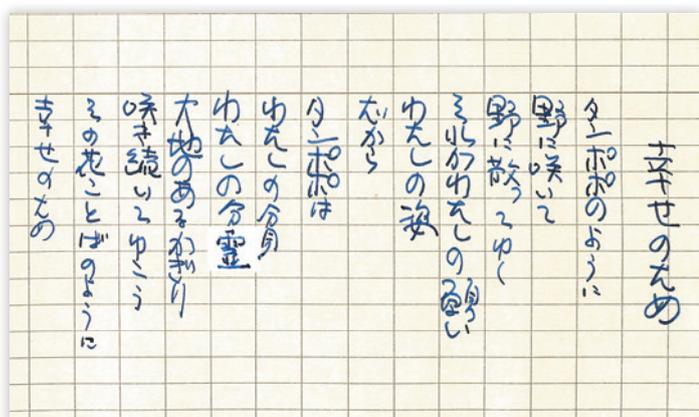
第1展示室

タンポポ魂(全文)	七字のうた(全文)
たんぽぽのうた(全文)	花一輪の宇宙(軸装)
二度とない人生だから	一華一佛(軸装)
念ずれば花ひらく(全文)	好日

第2展示室

真民さんとタンポポ(パネル)	タンポポはわたしの分身(全文)
ねがい(全文)	野草的人間(全文)
タンポポの花咲くへんろみち(全文)	野の花(全文)
タンポポ族(全文)	綿毛のように(全文)

第1展示室では、真民さんの代表的な詩の詩墨作品とともに、「タンポポと野に咲く花」を詠った詩を展示しています。第2展示室では、「タンポポ」を詠った詩と「タンポポの写真」、「真民さんとタンポポ」に関する多面的な作品と解説パネルを展示しています。記念館としては、初めて公開する「タンポポの詩」や真民さんが使用していた「タンポポ印」、「タンポポ堂の表札」等も展示する予定です。





真民さんはタンポポになぜ惹かれるのか



随筆集「愛の道しるべ」の中で、次のように書いています。

「道のべに生えているどんな小さな草でも、それぞれが独自の花を咲かせている。それをじっと見つめると、人として生まれてきた者は、だれ一人として無意義なものではない、一人ひとりが、その存在の使命を持っており、それを自覚して、それぞれの願いを持って、この二度とない人生を生きてゆくことが大切であることを教えてくれる。わたしは自分のいるところをタンポポ堂と言っているのであるが、これはタン

ポポがわたしに如何に生きべきか教えてくれたことによって、その恩を忘れてはならぬと思い、名づけたものであって、弱い体と弱い心を持ったわたしを今まで生かしてくれたのは、まったくこの野の花タンポポの励ましに依るものである。」

「タンポポは雑草である。金にもならぬ野の花である。そういう花にじっと目を注ぎ、じっと見つめ、ああタンポポは自分自身だと思い、励まされ教えられ、わたしは生きてきたのである。」



今号で創刊50号になりました。

今回の「タンポポだより」で、通算50号になりました。年に4回発行ですから、12年と半年が過ぎたことになります。

真民の「詩国」は、毎月発行で通算（「鳩寿」も含めて）43年間に515号出していますので、とても比較の対象にはならないのですが、開館10周年を無事に乗り越えて、また一つの区切りを迎えたと思っています。

「友の会の会報誌」として、十分な役目を果たすことができていることは、私としても大変心苦しいのですが、この会報誌でしか読めない「記事」、「情報」、「真民のとおきエピソード」等を、これからも掲載していきたいと思っています。

しかし、私たち夫婦だけで編集をしているのでは、アイデアも枯渇してしまいますので、どうぞ皆さんからのアイデアを募集します。何でも結構ですから、どんどん「ご意見・ご要望」、「ご提案」をお寄せください。



第1号は2012年夏号

企画展「真民さんとタンポポ ～野に咲く花と共に生きる～」 西澤館長によるミニ講演会の お知らせ

- 日時 10月27日(日) 11:00～12:00
- 場所 記念館会議室

入場無料 先着40名

真民詩に込められた言霊を道標に

ボランティアガイド 辻田寛

少年時代から詩歌に親しんできた辻田さん。真民さんの詩に触れたことがきっかけで、描いていた晴耕雨読のセカンドライフ構想から一転、坂村真民記念館のボランティアガイドへと舵を切った。



◆真民詩への接近

私は、団塊の世代として、貧しいながらも自然豊かな山村に生まれました。

小学生時代に小倉百人一首と出会い、中学生時代に島崎藤村、高校生時代に杜甫・陶淵明・劉希夷などを経て、二十代後半には吟詠会に所属し、詩歌に親しみました。

現在の住居は、真民さん(以下「先生」と表示)が暁天の祈りを捧げられた河川公園から指呼の間に在りますが、初めて先生の詩に接したのは五十三歳(先生九十二歳)の時です。御温顔を拝したのは、その二年後でした。

私は、現代の「詩」の世界では、先生の詩ほど広く深く親しまれているものはないと感じています。その要因は三つあると思います。

一つ目は、先生には「朴の会」という全国的な組織と「朴庵例会」という愛好者が交流と学びを深める場があったことです。今は、開館十三年目に入った「坂村真民記念館」と同館の会議室で行われる「日曜講座」が、学びの場として引き継がれているところです。

二つ目は、先生には、詩集や随筆集などの出版物や「詩国」の後記、詩案ノートなど、先生の思想と生き方を知らするための膨大な文章による遺産があることです。

三つ目は、国の内外に八百基にも及ぶと思われる詩碑があり、それを見る人々の心を捉えていることです。

このような先生の詩の中に流れている思想と表現力の根源には、幼少期に親しまれた祖国の神話と、青年期に学ばれた古事記・日本書紀・万葉集など日本の古典や中国の歴史書・漢詩・古事・逸話に加え、その後も精力的に読破された洋の東西に亘る文献があると思います。

◆ボランティアガイドへの道

私は、平成二十年の春に四十一年間奉職した官庁を辞し、その後は晴耕雨読の日々を予定していたのですが、それは極楽とんぼの儂い夢でした。

正気を取り戻した私は、多くのしがらみの中でも動きやすいように、自由度の高いボランティアを選択し、仕事に絡んで問題意識を持ち続けた教育の問題(特に家庭)に目を向けることになりました。ここに来て、教育の世界で名高い森信三先生から絶大な

期待を寄せられた真民先生の「六魚庵天国」(家族の絆)に帰することとなった訳です。

平成二十三年に、渡りに船とばかりにガイド研修を受け、記念館開館と同時にガイドを始めました。

その頃は、見学者への案内が前のめりになることが多く、反省ばかりの日々でした。一方、先生についての知識は、館内の書物や日曜講座での館長ご夫妻の丁寧なご説明により、効率的に蓄積されたと思っています。

これまでの学びの中で知り得た先生の人物相関を思い浮かべましても、利他の精神に富み、刻苦勉励して博覧強識の人ばかりです。「類は友を呼ぶ」とはよく言ったものです。

私が好きな「時」・「二度とない人生だから」などの詩に込められた先生の言霊は、私の終生の宝であり道標でもあります。これからも、より多くの人がこの言霊を身に宿して、自分を律し、他者を思いやる心を共有していただきたいと思います。

坂村真民記念館を応援しています



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム

To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム

モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

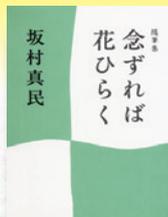
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!

念ずれば花ひらく



10万部突破の
超ロングセラー!

いま届けたい、生き方の道しるべ



詩集
宇宙のまなざし

詩集●定価=本体各1000円+税



詩集
二度とない人生だから

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

広告募集中

「タンポポだより」に広告を出してくださる
企業・団体等を募集しています。

[広告料]

1枠(タテ60mm×ヨコ170mm) …… 年間10万円

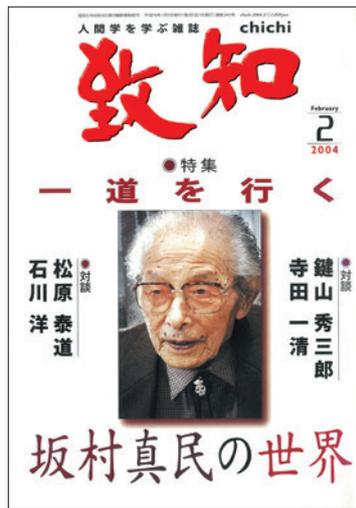
- 年間発行部数/2,000部(年4回発行)
- 送付先/友の会会員、県内社会教育施設、県内旅行・観光業者等その他、記念館の来館者に配布

「タンポポだより」の発行費用は、この広告料で賄っています。それによって、友の会の会員の皆様からの会費は、タンポポだよりの送付料や記念館の活動経費に充てることが出来ます。記念館の活動を充実させるためにも、広告料収入が必要不可欠です。どうぞ、このような趣旨をご理解くださり、広告掲載へのご協力をお願いします。





書店では手に入らないながらも、
口コミで増え続け、
11万人に定期購読されている
日本で唯一の
人間学を学ぶ月刊誌です



月刊誌「致知」
有名無名やジャンルを問わず、
各界各分野で一道を
切り開いてこられた方々の
貴重な体験談を
毎号紹介しています。

致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9

TEL.03 (3796) 2111 (平日9:00~17:30) FAX.03 (3796) 2108

致知

検索



坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉

芸術の秋、真民は美術館を訪ねるのが大好きでした。京都で開かれていたミレー展でのごと、絵の中にタンポポを見つけ「タンポポが私を待っていてくれた!」と大喜びした姿が忘れられません。タンポポとの出会いを大切にしました。(真美子)

タンポポだより vol.50 秋号

令和6年9月1日発行

発行元/坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間/9~17時(入館は16時30分まで)

休館日/月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日~1月1日

入館料/65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、

小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり